

日本人の約4割が発症

下肢静脈瘤という脚の血管の病気を存じますか。下肢とは脚、静脈瘤は血管(静脈)がこぶのようにふくらんだ状態のことを指します。静脈の中にある弁が壊れて閉じなくなり、本来なら心臓に戻るべき血液が逆流して、血管が脚の表面に浮き出る病気です。大動脈瘤や脳動脈瘤などのように、命に危険が及ぶことはありませんので安心してください。

ただ、脚がだるい、重く感じられる、こむら返りが出るなどの自覚症状が現れ、生活の質(QOL)止めています。

脚のこぶがすっきり

レーザーと高周波のカテーテルで血管をふさぐ

血管が脚の表面に浮き出る「かしじょうみやくりゅう下肢静脈瘤」。血管が破れて死に至るような恐ろしい病気ではありませんが、女性に罹患者が多いことから外見を気にする方も多いはず。金沢医科大学氷見市民病院の小畑貴司講師に、病気のメカニズムと治療法についてうかがいました。

| 今月の回答者 |



こばた たかし
小畑 貴司

金沢医科大学氷見市民病院胸部心臓血管外科講師
外科専門医・外科指導医
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会認定 指導医
胸部・腹部ステントグラフト指導医 など

が落ちる原因となります。40歳以上の女性に多く、日本人の15歳以上の約4割が発症しているとされ、患者数は1000万人以上と推定されます。

逆流をせき止める

ところで、この病気はなぜ発生するのでしょうか。それには、静脈の血液の流れを理解する必要があります。

人間は、一日のほとんどを立ったり、座ったりして生活しています。すると、脚の静脈の血液は重力に逆らって、脚よりも高い位置にある心臓に流れることになりま

す。そこで、体内には、静脈の血液が心臓に戻るための仕組みがあります。

第一に、脚にはふくらはぎや太ももの筋肉に囲まれた「深部静脈」があります。歩いたり、走ったりすることで筋肉が収縮して深部静脈を圧迫して血流を生み出します。これを「筋ポンプ作用」といい、脚は第2の心臓」と言われるのはこのためです。

さらに、心臓へ静脈血を効率的に流すため、静脈の血管壁には逆流を防止する静脈弁があります。これは、血液が心臓の方向に流れる時に開き、逆に血液が重力の影

響で心臓とは逆の方向に流れようとする閉じ、血液の逆流をせき止めています。

静脈弁が壊れる

下肢静脈瘤の原因は多くの場合、肌の表面近くを流れる「表在静脈」の静脈弁が壊れることで起きます。この静脈は、筋肉に囲まれておらず、組織も弱いことから、過度な圧力が加わると静脈弁が壊れてしまいます。そうになると、血液が逆流してしまいます。このような状態が続くと、逆流した血液

が血管内に溜まるようになり、静脈の血管が膨らんだり、伸びたりして下肢静脈瘤になるのです。

下肢静脈瘤には、静脈の太さが細い方から「クモの巣状静脈瘤」「網目状静脈瘤」「側枝静脈瘤」「伏在静脈瘤」の4タイプがあります。一般的に、症状があつて治療が必要なのは「伏在静脈瘤」です。他のタイプは比較的、軽症と言えます。

この病気で治療が必要となるのは、「湿疹や脂肪皮膚硬化症などのうっ滞性皮膚炎が起こっている」「症状があつてつらい」「外見が気になる」の3つの時です。軽症な場合は、弾性ストッキング

カテーテルで焼く

手術は「静脈の血液の逆流を止める」ことが基本です。これまでは、逆流して静脈としての機能を果たさなくなつて、下肢静脈瘤の原因となつている表在静脈(大伏在静脈や小伏在静脈と呼ばれています)は深部静脈が正しく流れているならば除去しても問題ないこ

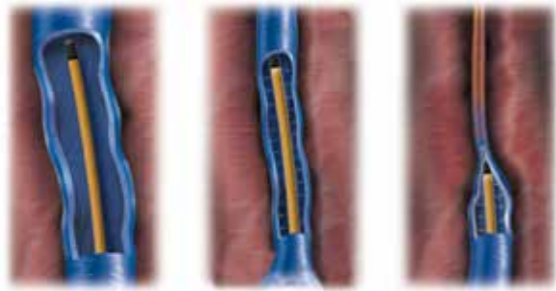
手術は「静脈の血液の逆流を止める」ことが基本です。これまでは、逆流して静脈としての機能を果たさなくなつて、下肢静脈瘤の原因となつている表在静脈(大伏在静脈や小伏在静脈と呼ばれています)は深部静脈が正しく流れているならば除去しても問題ないこ

とから、血管の中にワイヤーを入れて引き抜く「ストリッピング手術」が盛んでしたが、傷が大きくて痛みや内出血が伴います。

近年は、血管内にレーザー治療用ファイバーや高周波治療用カテーテルで血管壁を加熱して血管をふさぐ「血管内焼灼術」が普及しています。どちらも2〜3ミリのカテーテルを挿入するだけで、手術の痕がほとんど残りません。

血管内焼灼術は、血管内部から血管の壁を加熱して血管自体を収縮させ、最終的には血管をふさいでしまいます。また、片脚の焼灼術だけなら20〜30分と手術時間も短く、痛みや出血もほとんど起こらないことから、外科治療の主流となつています。症状にもよりますが、日帰り治療が可能で、手術後はすぐに歩行できます。

予防するには、長時間の立ったままだったり、座つたままだったりを避けることです。また、1日10〜15分のウォーキングも効果的です。ふくらはぎや太もものマッサージもよいでしょう。生活習慣を見直すことが予防につながりますので、ぜひ取り組んでください。



①体表から静脈内にカテーテルを挿入する
②カテーテルで静脈を加熱。血管を収縮させる
③カテーテルを引き抜き、静脈を閉そくさせる



血管内焼灼術で使用するカテーテル